

# にしおいけ

社会福祉法人 平成会

西の池学園

住所 東広島市高屋町小谷 5001-5  
TEL (082) 434-0405  
FAX (082) 434-5599  
メール heiseikai@nishinoike.or.jp  
HP http://www.nishinoike.or.jp/  
編集 西の池学園 広報部  
発行者 西の池学園長 赤坂 秀則

第 69 号

(平成 26 年 7 月 1 日)



ヘルパーで楽しい外出

## あおぞらぱん屋さん



ありがとうございます!! 大感謝祭

5月24日(土)、爽やかな晴天の中、大感謝祭を開催しました。

当日は、限定パンの販売、100円・150円パン均一コーナー、フレンチトーストに絵を書こうコーナー、ぱん屋利用者コーナーなど盛りだくさんの内容で、日頃「愛顧いただいているお客様や、地域の方々」に感謝の気持ちを込めてイベントを行いました。

店内ではスープレのサービスや、300円以上お買い上げの方にお菓子をプレゼントしました。今回、初めて店横にある芝生にテーブルとパソルを設置し、あたたかい商品をその場で食べられるようにしました。また、店外では、移動販売車によるアツアツの米粉ピザやベルギーワッフルの販売もあり、お客様からは「まるでカフェみたいじゃね」「風が気持ちいいね」と大好評でした。



店内



店外

おかげさまで大盛況のうちにイベント終了となり、つくづく皆様に支えられてこそお店があることを実感できた1日でした。これからも感謝の気持ちを忘れずに、「美味しい」と言っていたいただけるパンを利用者さんと共に届けたいです。

これからもう「期待ください!!」

あおぞらぱん屋さん店長 齊藤 滋春

## おすすめ商品



米粉  
シフォンケーキ

ホールサイズ ¥600  
(直径15cm 厚さ7.5cm)

いつも、みなさまにご愛顧いただいている「米粉シフォンケーキ」に、ホールサイズが登場しました!“ふわふわ もっちり”のシフォンケーキを、ご家族やお友達と是非ご賞味下さいませ。

随時、店頭販売! 予約を承っております!

あおぞらぱん屋さん 住田 美由紀

## デイセンターごだま

### 好きなことをサポート

利用者Nさんは、裁縫が好きな方です。ボタンの縫い付けなどでも器用にできますが、糸を何回通したら終わるのか「終わり」が分かりにくく、時間がかかってしまいます。終われないことでNさんがストレスを感じてしまい、生活リズムが崩れてしまうこともありま。そんな困り感のあるNさんに「分かりやすく『終わり』をお伝えできないだろうか?」、好きな活動を楽しく出来るような仕組みを考えたい!!と感じ、利き手やNさんの縫い方の特徴などを確認した後、文字や数字を使った一つひとつの作業内容をお伝えする手順書を作成しました。

#### 手順書



職員と一緒にその手順書を見ながら何度か練習していく内に、Nさんは少しずつ「終わり」を理解され、シャツやズボンのボタンを縫い終わることができるようになりました。今では、生き生きとした表情で、好きな裁縫を楽しんでおられます。



Nさんとの関わりや今回の取り組みから、私自身、日々の支援のあり方について振り返ることができました。「本人のできることが増えて、より活動を楽しむ」ための仕組みづくりを考えたり、少し苦手なことを私たちが支えることができる!!という喜びを感じました。

「自分でできた」という達成感や自信につながるように、これからも、皆さんとの関わりを大切にしていきたいです。

デイセンターごだま 鈴江由美子

## 生活を支える

障害福祉制度が見直される中で、地域生活移行ということに焦点があたっています。地域生活移行は、入所施設や病院の生活から、次のステップとしてグループホーム、アパート等で暮らすこと、こうした生活へ移行するという意味で使われます。個人的には、居住の場を基準に問うのではなく、住みたいところで普通に暮らし、さりげなく地域へ溶け込むことが地域で生活することだと捉えています。実際に入所施設の利用者数は平成17年以降8%以上減っており、国は今後更に4年間で4%削減するという目標を掲げています。西の池学園もここ数年で定員を10%以上減らしました。グループホームや居宅介護等入所施設以外のサービス供給体制が整ってきた証でもあるので、制度全体でみれば評価されることだと思えます。

入所系の施設は縮小へと誘導され実際に定員も減り、絶滅危惧種のように思われがちですが、現時点では優れた機能を備えています。医師、看護師、栄養士、生活支援員、調理師等の専門職配置がありチーム支援体制が確立され、休日・夜間を含め365日24時間職員を配置し生活を支える体制が整っている等、合理的で、迅速性、機動性といった大きな強みを持っています。当法人でも、今のところ西の池学園がすべての事業のバックアップ機能を担い、安心のベースにもなっています。

とはいえ、入所施設に軸足を置いた支援体制から、地域で暮らすことを支えるための体制へ徐々に移行していくことが必要だと考えています。制度が変わり、入所系施設の役割・あり方も問われていますが、積み上げてきたノウハウを生かし斬新な発想をもちながら、今の利用者者を大切に、そして、地域で生活することを支えるための拠点として積極的に役割を果たしたいと思えます。

西の池学園長 赤坂秀則